

MIYAGI's Forestry

みやぎの林業だより

237号

令和7年12月25日発行



◀みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら

—— 伐採の届出・森林の新規所有の届出は、市町村へ ——

御支援・御協力ありがとうございました！



第48回全国育樹祭は、国立花山青少年自然の家南蔵王野営場でのお手入れ行事、セキスハイムスーパーアリーナでの式典行事をはじめ、併催・記念行事とも宮城県の内外から多数の御参加をいただき、無事に終えることができました。

これもひとえに、皆様からの御支援と御協力の賜物と心から感謝しています。本当にありがとうございました！

今回で最後となる「全育つーしん」では、第48回全国育樹祭の様子を御紹介します。

全育つーしん

2025全国育樹祭

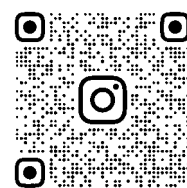
vol.7

10月4日
(土)

お手入れ行事 (国立花山青少年自然の家 南蔵王野営場)



水産林政部の
情報はこちらで
更新しています!!



水産林政部公式
Instagram

・県内水産・林業の情報
・各イベント等の様子
など

お手入れ行事では、平成9年の「第48回全国植樹祭」において、当時の天皇皇后両陛下がお手植えになられたブナとオオヤマザクラに対して、秋篠宮皇嗣同妃両殿下によるお手入れ(枝打ち・施肥)が行われました。

両殿下はお手入れされる前に、第48回全国植樹祭当時の天皇皇后両陛下によるお手植えの様子等のパネルを御覧になられました。お手入れの介添えやパネルの説明は、大河原産業高等学校の生徒や白石市内の小学生からなるみどりの少年団の団員に御協力いただきました。また、お手入れに使用された道具(鋸や鍬、肥料容器、パネル展示台など)は宮城県内の家具職人やこけし工人、白石工業高等学校に製作していただきました。

10月5日
(日)

式典行事 (セキスイハイムスーパーアリーナ)



式典行事では、秋篠宮皇嗣殿下によるおことばを始め、林業の振興や緑化の推進など、様々な分野で功労のあった方々に対する表彰が行われました。

また、高校生による式典アシスタント、式典音楽隊、オープニングアトラクション、国歌独唱や緑の少年団による苗木の贈呈や活動発表のほか、仙台市出身の俳優 前原滉さんとAZ9ジュニア・アクターズによるメインテーマアトラクション披露、利府西中学校の生徒による「花は咲く」の合唱など、次世代を担う多くの子どもたちに御協力いただきました。

式典行事を通して、県内外から御参加いただいた方々に宮城県の森林・林業を発信するだけでなく、第48回全国育樹祭の開催理念を伝えることができました。

4日(土)
5日(日)

併催・記念行事

お手入れ行事、式典行事のほか、併催・記念行事が行われました。



育林交流集会



全国緑の少年団活動発表大会



森林・林業・環境機械展示実演会



第48回全国育樹祭への御支援・御協力
本当にありがとうございました



みやぎの特用林産

森林が生み出すものは、木材から、きのこ、たけのこ、苔から木炭まで多岐に渡ります。宮城県の森から生まれる、「木製品」や「特用林産物」をPRする取組を御紹介します。

「みやぎの木製品展2025」を開催しました！

県では、木の良さや木材を利用する意義等を広く県民の皆様へPRするとともに、県産材の利用促進を図るため、「みやぎの木づくり運動」として県民運動を展開しています。特に九月から十一月までを「県産材利用推進月間」に設定し、関係団体等と連携しながら、森林・林業・木材に関する広報活動やイベントを積極的に開催しています。その一環として、九月二十九日から十月三十一日まで、県庁政庁舎十八階の県政広報展示室において、「みやぎの木製品展2025」を開催しました。今年度で三回目の開催となり、初参加の四事業者を含む計十一事業者に出展いただきました。可愛らしいデザインの玩具や雑貨、スマートフォンスタンドなど日用品が多数揃ったほか、実際に触れて、座って体験いただけるスツールなどの家具もあり、木製品により親しんでいただけの展示となりました。



▲展示されていた木工品



▲木製品展2025のポスター

本県の森林は本格的な利用期を迎えています。木材を利用することは、「木を使い、植え、育てる」という森林資源の循環利用を進め、カーボンニュートラルの実現に貢献します。今後、県民の皆様は「みやぎの木」に触れていただく機会をたくさんつくり、県産材の利用促進を図ってまいりますので、御理解と御協力をお願いします。（林業振興課）

仙台管内の特用林産物の振興について

令和7年11月2日(日)に、仙台市太白区の秋保ヴィレッジ「アグリエの森」と黒川郡大和町の「たいわ産業まつり」において、原木しいたけのPRイベントを開催しました。当日は、好天にも恵まれ、2つのイベントで計110組の皆様にご参加いただきました。

このイベントは、東日本大震災における原子力発電所事故により影響を受けた原木しいたけ生産について、安全安心を確保した美味しい原木しいたけが生産されていることを広く消費者に伝え、更なる消費拡大を図ることを目的として、宮城県と、仙台市及び大和町の原木しいたけ生産推進協議会との共催により実施しました。

植菌体験では、生産者から原木しいたけの栽培や体験後の原木の管理について説明があり、参加者からも多くの質問が飛び出すなど原木しいたけについて、より理解を深めていただく良い機会となりました。また、秋保ヴィレッジでは直売会と試食会が行われ、午前中に完売の商品が出るほどの大盛況となりました。その他、イベント内で林業のPRとして展示したおもちゃのチェーンソーなども、子どもたちに大人気でした。

今後も、原木しいたけの消費拡大を図るため、生産者と協力したPRイベント等の開催を支援してまいります。

(仙台地方振興事務所林業振興部)



▲(上)たいわ産業まつりで行った原木植菌体験



▲(左)秋保ヴィレッジで行われたイベントでは、ほだ木のプレゼントも行われました



野生鳥獣 の管理

豊富な森林資源は、野生鳥獣との共生を考えることにもつながります。宮城県の野生鳥獣の保護・管理のための取組を御紹介します。

ストーンバードを制作しました！ 愛鳥モデル推進校の取組

野鳥や自然を大切に育てるために、県では愛鳥モデル推進校を設定しており、推進校では様々な活動が行われています。

令和六年度から指定された川崎町立富岡小学校では、校舎の目の前を流れる碁石川を活用し、河原で鳥を探す「探鳥会」や、鳥を呼び寄せる音を出す「バードコール」の制作、小鳥の巣箱作り・設置等を通して、野鳥に親しむ活動をしてきました。

今年度は、六月に野鳥観察のポイントや野鳥の鳴き声クイズ等の講話を踏まえた「探鳥会」

と、小石を鳥の形に見立てて絵を描く、「ストーンバード」の制作を行いました。制作では、探鳥会の際に子ども達が自分で拾った小石を素材として、生徒十四人が思い思いの鳥を描き、可愛らしい作品ができました。子ども達からは「難しかったけど楽しかった。もっと作りたい」などの感想があり、野鳥に興味を持って、楽しみながら取り組める活動となりました。

今年度後半には、木製及び紙パック製の餌台（バードフィーダー）の制作やハクチョウを代表とする冬鳥の探鳥会等も予定しており、引き続き子ども達が興味を持てる活動を展開してまいります。

（大河原地方振興事務所
林業振興部）



▲(上)制作前のおはなし
(下)完成品。探鳥会で拾った小石から作成されたもの

鳥獣保護管理法の改正について

「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（以下「鳥獣保護管理法」という）は、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化を図り、もって生物の多様性の確保、生活環境の保全及び農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、自然環境の恵沢を享受できる国民生活の確保及び地域社会の健全な発展に資することを目的とするものです。

近年、全国的にクマの市街地への出没が相次いでおります。こうした事態に迅速に対応するため、令和7年9月1日に改正鳥獣保護管理法が施行されました。この改正の大きな柱の一つが、市街地などにおける「緊急銃猟」制度の創設です。

本制度は、差し迫った人への危害を防ぐため、緊急性が高いと判断した場合に、市町村長の判断に基づき、迅速な銃器使用を可能とするものです。

この「緊急銃猟」制度において、県では、「市町村の支援等」及び「職員の応援派遣」を行うこととしています。

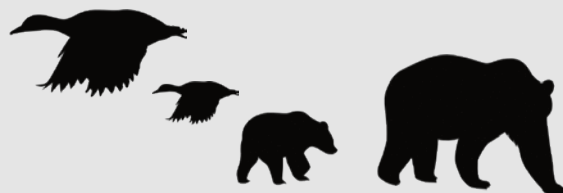
このため、「市町村の支援等」の一環として、令和7年10月28日、クマ出没時の適切かつ迅速な

対応を図るため、関係機関連絡体制の確認及び実際の現場対応を想定し、「令和7年度クマ出没時対応合同訓練」を行いました。

また、クマ出没時において、市町村からの応援要請に基づき、県職員を派遣するなど、連携して対応に当たります。

県民の皆様の安全・安心な暮らしを守るため、今後も市町村と緊密に連携し、野生動物の適切な保護及び管理に努めてまいります。

（自然保護課）



宮城県内のクマ出没情報、目撃等情報マップなど、クマ出没の最新情報は以下URL又はQRコードから御確認下さい▶

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sizenhogo/r7kuma.html>



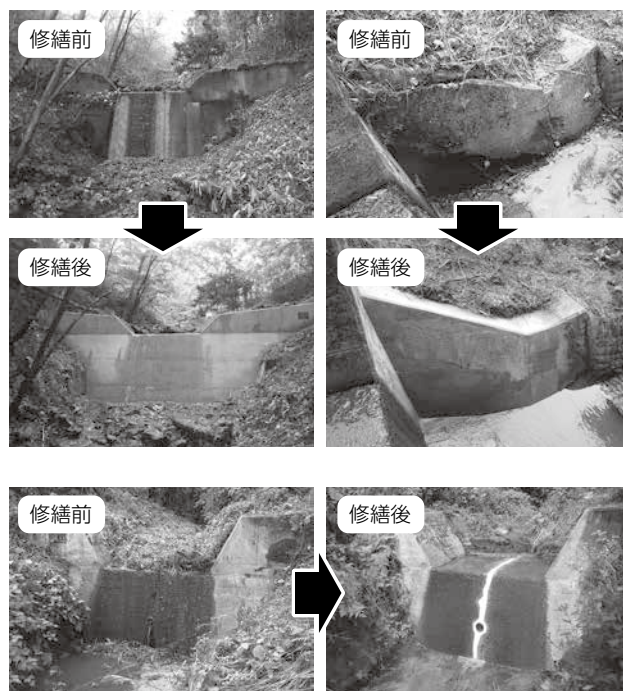
老朽化した治山施設の修繕工事を行っています

宮城県では、老朽化した施設の維持強化を図るため「宮城県治山施設個別施設計画」を策定し、第1期計画期間(令和3年度から令和7年度まで)において、山地災害危険地区における危険度Aランク及びBランクの地区にある治山施設を優先して修繕工事を進めています。

栗原管内の治山施設においては、これまで整備してきた施設は古いもので設置から50年以上が経過している施設もあり、施設点検の結果、経年劣化によるコンクリートの表層剥離やひび割れなど、本体構造の健全度が低下していると判断されたものが65施設ほど確認されました。このうち、これまでに62施設の修繕工事に着手し、50施設の修繕が完了しました。

今後は、用地や地形上の課題から着手できなかった施設及び山地災害危険地区における危険度Cランクの施設について、再検討・再点検を行い、修繕工事を進めていく予定です。激甚化する山地災害の未然防止と森林が持つ公益的機能の維持を図るため、引き続き修繕工事を進めてまいります

ので、工事への御協力をよろしくお願いします。
(北部地方振興事務所栗原地域事務所林業振興部)



▲施工場所の修繕前後

登米の森林を未来につなぐ森林経営管理制度～登米圏域推進会議の開催～

森林経営管理制度は、所有者による管理が困難な森林を市町村が預かり、集約化した上で意欲と能力のある林業経営者へと経営を託す仕組みです。経営が引き継がれた森林は木材生産と環境保全の両立を目指して、適正に経営管理が進められることとなります。

登米圏域では、登米市と森林組合、当所で組織する「登米圏域推進会議」を定期的に開催し、制度の円滑な推進に向けて検討を重ねており、構成メンバーに森林組合が入ることで、市が作成する集積計画に基づき、これまで管理が難しかった森林の経営管理に向けた取組が一体的に進められています。

一方、森林整備の担い手確保をはじめ、小規模分散した森林の集約化や適正な経営管理には様々な課題があり、現状で経営委託を行っても自立的な森林経営が困難な状況となっています。

そのため、圏域推進会議では、中期的な方針を協議し、将来的には、「経営に適した森林」と急傾斜地等の条件の悪い箇所を「守って活かす森林」に区分し、効果的な路網整備や森林整備を進めるこ

とで、適切に森林を管理していくこととしました。

また、会議で決定した方針を市町村森林整備計画のゾーニング(森林を用途ごとに区分すること)に反映させ、計画的な森林整備の推進を図るとともに、国際基準において第3者から認証されるFSC森林認証の取得拡大にも取り組んでおり、登米圏域の森林・林業の持続可能な経営を推進しています。

県としても、これらの制度が適切に運用され、「登米の豊かな森林」が未来に引き継がれるよう、今後とも支援してまいります。

(東部地方振興事務所登米地域事務所林業振興部)



▲令和7年度第1回登米圏域推進会議の様子

気仙沼市立松岩小学校による植樹活動が行われました

気仙沼市立松岩小学校では、5年生(児童数66人)の総合学習において、「気仙沼の豊かな海と森林環境の関わり」をテーマに学んでおり、その一環として(一社)松岩愛林公益会等の協力を受け、同会の所有山林に有限会社早稲谷・菅原苗木店から提供された広葉樹(クヌギ・コナラ・エノキ)を植林しています。

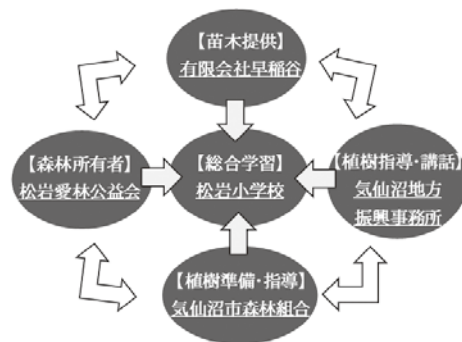
エノキの葉は、国蝶であるオオムラサキの幼虫の餌として主食となるため、いつか気仙沼市がオオムラサキの群生地となるようにという思いから植栽木に選定されました。

本取組は令和2年度から継続して実施されており、右図のとおり、児童に気仙沼の森と海のつながりについて体験しながら学ぶ機会を作るため、地域の林業関係者がタッグを組んで行っています。

当事務所では、森林が持つ機能と山と海とのつながりについて講話するとともに、苗木の植え方のデモンストレーションを交えて、植林作業の補助を行いました。児童の皆さんは、今回の植林を通じて、日本有数の豊かな漁場である気仙沼湾の

海産物が、山の恵みに支えられていることを理解し、木を植える楽しさや、気仙沼の環境を守っていく重要性を感じとっていたようでした。

(気仙沼地方振興事務所林業振興部)



(上段) 松岩小学校で行われる、広葉樹植樹の活動の仕組み
(下段左) 植樹のデモンストレーション
(下段右) 子供たちによる植樹

「令和7年度森林土木業務成果発表会」を開催しました

宮城県では、毎年治山林道事業を担当している職員において、日頃の業務を遂行する上で得た知識や技術等を成果としてまとめ、相互の情報交換の場とする発表会を開催しています。今年度は、7月4日に県大崎合同庁舎において行われ、各地方振興事務所から合計で7つの課題発表がありました。

◆最優秀賞：東部地方振興事務所

「林道調査アプリを用いた災害初動調査への活用」

近年、気候変動による災害の激甚化や土木系技術職員の減少により災害初動調査が遅れてしまうことから林野庁が提供する「林道調査アプリ」を活用しました。

成果として、作業時間の短縮や少人数での調査が可能となりました。今後は、市町村と打合せを行い当アプリの活用・普及を進め、災害初動調査を行うことを考えています。

◆優秀賞：気仙沼地方振興事務所

「海岸防災林におけるクズ対策について」

津波被害を受け、復旧した海岸防災林において

クズの侵入が顕著になってきたことにより、植栽木の成長阻害問題が大きな課題となってきました。そこで、5種類の薬剤を活用したクズ対策の実証試験を行いました。現在実証中ですが今後、より費用対効果の高い対策について検討を行い、当試験結果を取りまとめ、今後の海岸防災林の保育管理に取り入れていくこととしました。

県では当発表会での成果を今後の事業に取り入れ、事業の省力化等に役立てていくこととしています。
(森林整備課)



▲記念撮影の様子

海岸林に潜む 「グリーンモンスター」の脅威！

皆さんは、「グリーンモンスター」を御存じでしょうか？

県の沿岸部には海岸防災林として松林が成林していましたが、震災による津波で被害を受けたため、新たに造成を行いました。当管内でも令和二年度の復旧完了後、現在は下刈り等の保育作業を実施していますが、その区域内でグリーンモンスターが猛威を振るっています。

その正体は「クズ(葛)」です。

クズは、マメ科クズ属のツル性多年生草本で、北海道から九州までの日本各地に分布しており、ツルは他のものに巻き付くか地面を這って十メートル以上に伸び、広い範囲で根を下ろし、高い繁殖力を持っていきます。クズは、生長したクロマツに巻き付いた上、覆い被さり、最終的には枯死させてしまいます。

「秋の七草」として日本人に身近な野草であり、かつては、根は「葛粉」、ツルは「葛布」として利用するため、有用な植物として盛んに栽培されてきましたが、里山などの放置が進むにつれて、次第にクズは雑草として扱われるようになっていきました。



▲海岸防災林で圧倒的な繁殖力を見せる「グリーンモンスター（クズ）」

さらに、家畜の飼料や土壌流出防止などの目的でクズが持ち込まれたアメリカでは、その猛烈な繁殖力から「グリーンモンスター」という名称が付けられ、侵略的外来種として今では厳しく管理されています。

このグリーンモンスターから、植栽したクロマツを守り、海岸防災林としての機能を十分に発揮することができるよう状態を保つために、当事務所では毎年、下刈りと併せてつる切りの作業を実施しています。今後も、より効果的な対策ができるような取組を進めてまいります。

(東部地方振興事務所林業振興部)

巣植え植栽地の継続調査について

「巣植え」という植栽方法をご存じでしょうか？「巣植え」は3本のスギを三角形に配置し、1つの巣のように植栽する方法です。

「巣植え」は密植(通常より多い本数を植栽)と疎植(通常より少ない本数を植栽)のメリットを併せ持ち、次の3つの特徴があります。

- ①植栽本数が少なくなり低コスト植栽につながります。
- ②密植により雪害や風害に対する抵抗力を持ちます。
- ③密植により競争が働き、優良材の生産が期待できます。

巣の周辺を坪刈り(全面積ではなく植栽木の周囲のみ刈払う方法)とすれば、広葉樹を育成でき、多様な森づくりが可能になります。

当事務所では、巣植えでどのような森林を育成できるのか把握することを目的に育林調査を実施しています。森林所有者から協力を得て、大崎市岩出山池月の森林に、平成26年に210本のスギを植栽し、生長量調査等を継続中です。植栽後、下刈りは平成30年に終了し、令和4年に除伐を行いました。現在は林冠がうっ閉し、立派なスギ林に育ちつつあります。

このような育林調査は結果を把握するまで長い年月が

必要です。そのため、丈夫な杭やプレートを使って番号を付け、継続して調査を行います。劣化が否めません。そこで、今年はGNSS機器を活用して、植栽位置図の作成に取り組みました。今後も、これらをもとに「巣植え」植栽地の生長を観察していきます。

(北部地方振興事務所林業振興部)

(右)
「巣植え」植栽の巣

(下)
「巣植え」植栽の生育状況



東北初！ 塩竈市に森林アクティビティ施設が誕生

令和七年八月、塩竈市の伊保石公園に森林アクティビティ施設が誕生しました。

塩竈市では、令和三年の市制施行八十周年を機に、開園から三十年以上が経過した伊保石公園の再整備に着手しました。市民アンケートを実施したところ、アスレチック施設を望む声が最も多かったことから、民間活力導入を前提に検討を重ねました。その結果、駐車場やトイレ、利府中ＩＣからの誘導看板などの基盤は市が整備し、アスレチック施設は民間投資を活用することで、塩竈市の目指す姿が実現できる見込みが立ちました。これを踏まえ、令和六年度に設置管理許可制度により提案募集した結果、株式会社ワクワパークが「自然共生型アウトドアパーク・フォレストアドベンチャー」を設置することが決定しました。



綱の空中散歩を楽しみ、「ジップスライド」で地上へ滑り降りる体験は、スリルと爽快感、達成感を味わえると子供から大人まで幅広い世代に楽しまれています。民間投資を活用した森林アクティビティ施設ができたことにより、若年層が訪れるようになった効果は大きく、塩釜水産物仲卸市場との相互割引など塩竈市全体の賑わい創出につながっています。今後も、森林の魅力が多くの方に伝わるよう、当事務所も応援してまいります。
(仙台地方振興事務所 林業振興部)

▶ 爽快なジップスライド

最新ドローンとレーザ計測データの利活用によるスマート林業の推進

森林施業の効率化・省力化を図るためには、ＩＣＴ等の先端技術を活用したスマート林業の導入が有効です。

当県では、令和２年度から林業分野へのドローン等の導入・活用を進めてきましたが、近年の技術進歩により、更に高性能な機体が登場しています。そこで、宮城県森林組合連合会の主催で県内の森林組合等に向けて、「最新ドローンによる新しい森林計測手法とデータ利活用講習会」が開催されました。

講習会では、最新のドローン機体による計測手法の実演（講師：ドローンショップ仙台）や、地形解析デモンストレーション（講師：株式会社ビーシステム）が行われました。

◆最新ドローン機体の実演

撮影速度の高速化により飛行時間が短縮されたことに加え、操作に不慣れであっても容易に飛行できる「リアルタイム地形フォロー機能」が搭載された最新機種が紹介されました。当日は、実際に皆伐・再造林が行われた森林において、飛行の実演・体験が行われました。

◆地形解析デモンストレーション

３Ｄ点群解析ソフト「ScanSurveyZ」を使用して、宮城県土木部がオープンデータ化している航空レーザ計測成果（ＤＥＭデータ）から微地形等の解析デモが行われました。

ドローンをはじめ、スマート林業に関する技術は日々進歩しています。厳しい自然条件下での人力作業の省力化や、森林経営の効率化に向けて、スマート林業に取り組んでみてはいかがでしょうか。

(宮城県スマート林業研究会事務局：宮城森林・林業活性化センター／林業振興課)



▲最新ドローンによる森林計測手法の実演
(写っている機体はDJI Matrice400)



宮城県土木部の航空レーザ計測成果が公開されているオープンデータポータルサイトはこちら。

秋篠宮皇嗣同妃両殿下の林業技術総合センター御視察

10月5日第48回全国育樹祭式典行事への御臨席の後、地方事業御視察として、両殿下に当センターにお出でいただきました。当センターの概要を御説明したほか、海岸防災林関係者との御交流、みやぎ森林・林業未来創造カレッジ関係者との御懇談が行われました。

◆林業技術総合センターの概要・試験研究の御説明

まず、当センターの沿革、令和3年度にC L Tパネル工法で新築した施設について御説明するとともに、ハタケシメジの品種開発、無花粉スギ品種の開発について御説明しました。両殿下からは、C L Tの性能やハタケシメジ品種の開発方法、無花粉スギの増殖について、熱心に御質問いただきました。

◆海岸防災林関係者との御交流

次に、公益財団法人オイスカ、特定非営利活動法人わたりグリーンベルトプロジェクトの皆さんと御交流されました。各団体からパネルを用いて海岸防災林復旧の取組や現在の保育作業等について説明を受けられ、作業が大変なことや苗木の調達について御質問され、積極的に御交流されました。

◆みやぎ森林・林業未来創造カレッジ関係者との御懇談

最後に、カレッジの関係者として、元センター職員で加美町振興公社の小杉徳彦さん、栗駒高原森林組合の月岡正博さん、新誠木材株式会社の野澤孟司さんと御懇談されました。皆さんからは、カレッジの立ち上げ、講師としてどのように人材育成を行っているか、研修の内容をどのように活かしているかなど御説明され、両殿下からは、子どもたちへの森林学習で興味を持ってもらうことが重要とお言葉がありました。

今回の御視察は、大変光栄なことであり、森林・林業関係者の励みになるものと思います。

(林業技術総合センター企画管理部)



◀カレッジ関係者と両殿下の御懇談の様子

コシアブラの新芽は人気の高い山菜ですが、その栽培は難しく、全国生産量の約九十六パーセントは山採りとなっています。さらに、福島第一原子力発電所の放射性物質拡散事故から十年以上経過しても、いまだに宮城県を含む広域で出荷制限又は自粛が続いており、他の山菜に比べて放射性セシウム濃度が高く、経年的に濃度が上昇傾向との報告もあります。

そこで当センターでは、栽培による出荷再開の可能性を検討するため、コシアブラがマンガン超集積性植物であることに着目し、施肥による栽培手法の検討及び放射性セシウム濃度の低減効果の検証を実施しています。今回は、カリウムやマンガンの施肥がコシアブラの成長に与える影響を調べるための栽培試験について紹介します。



▲植栽当年(左)と3年目(右)のコシアブラの様子

量が大きい傾向があり、特に山土にマンガン・カリウム施肥区の成長量が大きく、初期サイズを加味した相対成長率で比較しても高い傾向が確認できました。栽培が難しいとされるコシアブラですが、プランター栽培において、山土へのマンガン施肥が成長に効果があることが示唆されました。

今後は、放射性セシウム対策を含む安全性の確認、収穫を見越した栽培方法の検討を進めていきます。

(林業技術総合センター
企画管理部)

コシアブラ栽培方法の検討 ～マンガン・カリウム施肥効果～

半閉鎖型採種園による 少花粉スギ種子の生産

林業技術総合センターでは、良質な少花粉スギの種子生産を図るため、令和2年度から令和4年度にかけて半閉鎖型採種園を3棟造成しました。



▲半閉鎖型採種園



▲半閉鎖型採種園内の母樹

通常、林業用種子の生産施設である採種園は屋外に造設することが一般的です。しかし、少花粉スギの種子生産では、少花粉スギの雌花に少花粉スギの花粉を受粉させることが理想であり、通常のスギと比較して花粉の飛散量が1%以下という特性を持つ少花粉スギの採種園を屋外に造成した場合、採種園の外から飛んでくる花粉によって受粉する確率が高くなることが考えられます。このような目的外の花粉による受粉を防ぎ、少花粉スギ同士の交配を確実に行うため、採種園を丸ごとパイプハウスの中に造設し、受粉の時期以外は側面のビニールを巻き上げて解放できるようにしたもののが半閉鎖型採種園になります。



▲花粉の精選



▲交配作業

令和2年度から令和3年度にかけて造成した2棟の半閉鎖型採種園は母樹が十分に育ってきたため、令和7年3月に初めて受粉作業を実施しました。春先の作業となりましたが、パイプハウスの中の気温はとても高く、花粉が舞う中での作業となり、大きな負担が伴いましたが、作業後には結実した球果を確認することができ、受粉が成功したことが分かりました。その後、球果は順調に成熟し、令和7年10月からは球果の採取作業を実施しました。今後は年度内の種子の販売に向けて、球果の乾燥、種子の精選、発芽試験を行う予定です。

(林業技術総合センター試験研究部)



◀半閉鎖型採種園のスギの球果

お聞かせください!



▲アンケートは
こちらから



平素より林業だよりを御購読いただき誠にありがとうございます。この度、今後の企画・編集に際して読者の皆様の御意見・御感想を参考にするため、読者アンケートを実施させていただくこととなりました。表紙・紙面デザイン及び毎号の紙面内容についての感想や、次号以降の記事で取り上げてほしい内容など、是非御意見をお聞かせください。今後のより良い「みやぎの林業だより」発行のため、是非御回答をお待ちしております。

みやぎの林業だより
読者アンケートに
御協力ください



宮城県水産林政部はInstagramで水産業・林業などに関する情報発信を行っております。ぜひ「海山人みやぎ」のフォローをお願いします。

アカウント名: **UMIYAMAHITO.MIYAGI**

URL: <https://www.instagram.com/umiyamahito.miyagi/>



UMIYAMAHITO.MIYAGI

木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(令和7年11月)

樹種	材長 m	径 級 cm	価格(中値 単位: 円/㎡)			
			大衡	仙南	仙北	津山
スギ	3.00	14~16	—	—	—	—
		16~30	—	—	—	—
		20~32	13,500	12,000	—	13,300
	4.00	10~13直曲	10,000	—	9,500	10,000
		14~18直曲	10,000	—	9,500	10,000
		20~22	12,000	—	12,100	12,700
		24~34	13,000	12,500	—	13,500
		36~	12,500	12,500	—	12,000

資料: 宮城県森林組合連合会

概 況

素材動向

・素材平均価格は前年と比較し、ほぼ同水準で推移しており、10月以降上昇傾向で推移している。

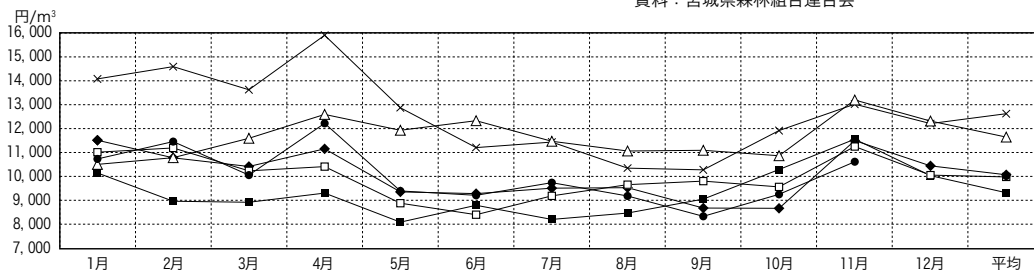


図1 素材価格の動き

素材: 県森連共販所市況(平均価格)

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況(令和7年11月)

単位: 円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和2年	999	965	977	1,006	973	958	926	944	1,057	1,044	989	1,001
令和3年	1,046	954	916	879	892	862	843	921	939	921	948	1,035
令和4年	1,010	991	982	948	983	1,012	1,035	976	1,002	1,015	1,013	1,038
令和5年	1,031	968	967	966	996	1,038	1,019	996	1,011	1,016	1,006	1,068
令和6年	1,072	1,045	1,069	1,042	1,084	1,014	1,028	1,045	1,122	1,182	1,214	1,325
令和7年	1,286	1,239	1,217	1,182	1,137	1,128	1,064	1,084	1,129	1,193	1,169	

資料: 仙台中央卸売市場

概 況

・平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い、価格は大きく下落したが、平成26年次以降は900円~1,200円台と、震災前の平均価格を上回っている。
・令和7年の生しいたけ月平均の単価(円/kg)は1月から前年より高い水準で推移していたが、9月から前年度同月とほぼ同じ価格帯となり、11月の単価は1,169円となった。

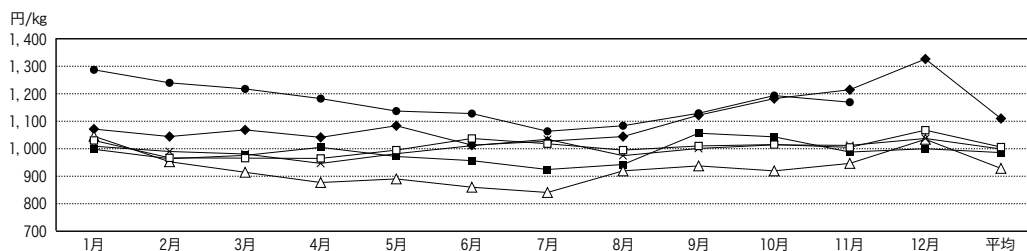


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(令和7年9月)

項 目	総 数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
令和7年9月(戸)	874	790	84	90.4
令和6年9月(戸)	1,246	975	271	78.3
前年同月比(%)	70.1	81.0	31.0	—
令和6年9月~令和7年9月(戸)	14,945	11,232	3,713	75.2
令和5年9月~令和6年9月(戸)	18,095	13,211	4,884	73.0
前年同期比(%)	82.6	85.0	76.0	—

資料: 住宅着工統計

概 況

新設住宅着工戸数

・9月の新設住宅計は前年同月比で29.9%減少し、前年同期比では17.4%減となった。
・構造別では木造が前年同月比で19.0%減少し、前年同期比で15.0%減となり、木造率は前年同月比で12.1ポイント増の90.4%となった。



今回御紹介するのは、栗原市にある栗駒高原森林組合で働く、組合職員の千葉愛結実さんです。千葉さんは、2024年に森林組合に入組後、森林整備センターの新植・保育事業の現場管理及び事務に携わっています。



栗駒高原森林組合
業務課 千葉 愛結実さん

一本日はよろしくお願いします!

まず、現在の仕事について教えていただけますか?

千葉愛結実さん(以下、千葉さん):

よろしくお願いします。私は現在、栗駒高原森林組合の業務課に勤務しています。仕事は大きく分けて現場作業と事務作業があり、だいたい現場が6割、事務が4割くらいの割合です。現場作業は森林整備の管理や調査、事務作業は担当している現場の書類作成などを行います。山や運動などが元々好きで就職したので、個人的には現場作業が好きです。

ー御自身が働く中で、特に楽しさや、やりがいを感じる時間はありますか?

千葉さん: 私は特に、下刈り作業の現場が好きです。伸びた雑草を刈り払い、整備された現場を見ると達成感があります。作業員の皆さんが暑期中頑張ってくださった成果が目に見えてわかると、現場管理の立場としても大きなやりがいを感じます。あとは、現場の先輩方と話す時間です。私自身の目線では気づけない「作業中にこんなことあったよ」とか、「このあたりは熊や鹿が多いよ」といった現場の声を聴かせてくれます。

元々山が好きなので、そういったお話を聞けるのは楽しいですし、仕事をするうえでもとても大切な時間です。

ーでは、仕事のうえで特に気を付けていることはなにかありますか?

千葉さん: 現場では、「自分を過信しないこと」と、「無茶をしないこと」を一番に心がけています。山での作業はけがや体調不良のリスクが高いため、現場に慣れてきたと感じる時ほど、慎重に移動や作業を行うよう意識しています。また、現場では作業員さんとのコミュニケーションにも気を配っています。

作業員さんは皆さん先輩ばかりなので、業務上は、私が指示を出す立場ですが、相手の意見をしっかり聞きながら、指示を出すように心がけています。私もそのようなやり取りを通して現場で勉強させてもらっています。

ー入組前後で「林業」という仕事に対するイメージは変わりましたか?

千葉さん: 入組前は林業というと、木を植えたり手入れをしたり、いわゆる「山で木を伐る」仕事というイメージが大きかったです。実際に勤務してみると、当組合ではコケの栽培・販売なども行っていて、業務内容が多岐に渡っていることに驚きました。

ー森林組合への入組したきっかけはどのような経緯だったのでしょうか?

千葉さん: 高校の先輩が入組されたと知って、近くにこういう企業があるんだと関心を持ちました。高校3年生の時に参加した組合の見学会で、職員同士が気軽に話せるアットホームな雰囲気に惹かれました。業務についてもその際説明を受け、現場に出る機会が多く、体を動かす場

面が多い仕事だと聞いて、運動は好きだし、現場にも出られるのが自分に合っていると感じました。

ーありがとうございます。

最後に今後の抱負と、県内の林業に向けて期待していることがあれば教えてください。

千葉さん: まずは、作業員さんからの質問に一人ですっきり答えられることや、現場ごとの特徴を完璧に把握するなど、一人に対応できる職員になることが当面の目標です。将来的には、林業機械の操縦免許など、林業ならではの資格も積極的に取得したいと思っています。また、実際にこの業界に入って、林業がまだまだ若者にとって遠い業界であると感じました。当組合も若者雇用のための取組を進めていますが、林業全体や森林組合の職員に対しては、「専門的だ」「堅苦しい」といったイメージを持たれているように感じます。若い人に向けて入りやすい、親しみやすい職場や仕事なんだよということをもっと広く伝えていければと思っています。

作業中の様子



▲(上)執務室内での様子
(下)林内での調査

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘

本社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150
営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山・鶯沢
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所

地域との共生 めぐるめぐみ



坂元植林株式会社

株式会社サカモト



坂元植林の家



ウッドデザイン賞 環境大臣賞



989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252 web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 武弘
専務理事 小澤 幸三
理事 亀山 征弘
理事 梶原 領太
監事 阿部 貢彦
監事 富澤 和彦

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長 米澤 光秀
副会長 永井 政雄
副会長 菅原 正義
副会長 佐藤 裕康

ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる
奥地水源地域の森林整備

水源林造成事業

宮城県水源林造林協議会

〒980-0011
仙台市青葉区上杉2丁目4-46
宮城県森林組合会館内
TEL (022) 266-7121

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

- ☑ 製材機械
- ☑ プレカット機械 「木」に関連する機械の販売及びメンテナンス
- ☑ 農林業機械



筒井鋼機株式会社



(022)224-1261



(022)265-9231

〒980-0013

仙台市青葉区花京院二丁目2番22号



弊社WEB

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)^{もりちから}等を通じ、森林の公益性発揮を目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号 (JAビル宮城内) ☎022(711)7641(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南地区木材センター 0224-51-9916

仙北地区木材センター 0229-72-1877

大衡綜合センター 022-345-2205

津山木材センター 0225-68-3038

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木, 海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ,
林業用及び森林復旧用各種苗木のご用命・ご相談承ります。

宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

林業の^今を伝える月刊誌



GR 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,400円(送料込み)



林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 3,000円(送料込み)



山林

A5判 66頁
年間購読料 4,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階

TEL 022-301-7501
FAX 022-301-7502

スゴいぞ! みやぎの木のチカラ



木×SDGs

Wise use of woods from みやぎ!

県土の約6割を占める森林は、水源のかん養や山地災害の防止など多様な機能を担っており、その発揮が様々なSDGsの目標達成に貢献しております。また、製造時のCO2排出量が少なく、内部に炭素を蓄える木材を上手に利用すること（ワイズユーズ）は、温暖化防止など様々なSDGsに貢献し、そこから生み出される恵みを森林の再生に還元させることで持続可能な循環を作り出すことができます。

みやぎにはJAS製材品など優れた品質の木材や高度な加工技術があります。どうぞ、家づくりや街づくり等において「みやぎの木のチカラ」を実感してください。

私たちがお手伝いいたします。

宮城県木材協同組合の取組例

JAS製品の 利用拡大



宮城県産材 利用拡大



宮城県木材協同組合

理事長 米澤 光秀

tel: 022(233)2883 <https://miyagi-wood.jp>

令和7年度JAS構造材実証支援事業

森林は大切な資源です

森林整備を通して

美しい森林を未来に伝えます



一般社団法人 宮城県林業公社
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>

緑の募金 にご協力 ください!



令和8年目標額

45,000,000円

令和8年緑の募金運動スローガン

「緑の募金で進めよう SDGs」～森林を守る 森林を活かす～

公益社団法人 宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502